**2016年3月24日 詩編を読もう：主の御苦しみから賛美へ(詩編22編)**

レント(四旬節・受難節）の最後の1週間は、ホーリーウィーク(聖週間・受難週)と呼ばれる。いろいろなよび方がされるのは、この季節、またこの週の意味があまりにも深く、いろいろな局面をもっているからだと思う。受難週にあって、今年は、25日が受苦日であり、主の十字架をおぼえるのにふさわしい、詩編22編を、各自、ゆっくり読みたい。そして今のような世相にあって、復活祭で新たになる十字架の赦し、和解についても思いを巡らせたい。　また詩編22編は、過去にも読んでおり、過去の牧師の観想、2015年4月2日の「詩編を読もう」、<http://california.lcrjm.com/?p=5246>　を参照いただければと思う。

詩編 22編

1:【指揮者によって。「暁の雌鹿」に合わせて。賛歌。ダビデの詩。】

2:わたしの神よ、わたしの神よ／なぜわたしをお見捨てになるのか。なぜわたしを遠く離れ、救おうとせず／呻きも言葉も聞いてくださらないのか。

3:わたしの神よ／昼は、呼び求めても答えてくださらない。夜も、黙ることをお許しにならない。

4:だがあなたは、聖所にいまし／イスラエルの賛美を受ける方。

5:わたしたちの先祖はあなたに依り頼み／依り頼んで、救われて来た。

6:助けを求めてあなたに叫び、救い出され／あなたに依り頼んで、裏切られたことはない。

7:わたしは虫けら、とても人とはいえない。人間の屑、民の恥。

8:わたしを見る人は皆、わたしを嘲笑い／唇を突き出し、頭を振る。

9:「主に頼んで救ってもらうがよい。主が愛しておられるなら／助けてくださるだろう。」

10:わたしを母の胎から取り出し／その乳房にゆだねてくださったのはあなたです。

11:母がわたしをみごもったときから／わたしはあなたにすがってきました。母の胎にあるときから、あなたはわたしの神。

12:わたしを遠く離れないでください／苦難が近づき、助けてくれる者はいないのです。

13:雄牛が群がってわたしを囲み／場シャンの猛牛がわたしに迫る。

14:餌食を前にした獅子のようにうなり／牙をむいてわたしに襲いかかる者がいる。

15:わたしは水となって注ぎ出され／骨はことごとくはずれ／心は胸の中で蝋のように溶ける。

16:口は渇いて素焼きのかけらとなり／舌は上顎にはり付く。あなたはわたしを塵と死の中に打ち捨てられる。

17:犬どもがわたしを取り囲み／さいなむ者が群がってわたしを囲み／獅子のようにわたしの手足を砕く。

18:骨が数えられる程になったわたしのからだを／彼らはさらしものにして眺め

19:わたしの着物を分け／衣を取ろうとしてくじを引く。

20:主よ、あなただけは／わたしを遠く離れないでください。わたしの力の神よ／今すぐにわたしを助けてください。

21:わたしの魂を剣から救い出し／わたしの身を犬どもから救い出してください。

22:獅子の口、雄牛の角からわたしを救い／わたしに答えてください。

23:わたしは兄弟たちに御名を語り伝え／集会の中であなたを賛美します。

24:主を畏れる人々よ、主を賛美せよ。ヤコブの子孫は皆、主に栄光を帰せよ。イスラエルの子孫は皆、主を恐れよ。

25:主は貧しい人の苦しみを／決して侮らず、さげすまれません。御顔を隠すことなく／助けを求める叫びを聞いてくださいます。

26:それゆえ、わたしは大いなる集会で／あなたに賛美をささげ／神を畏れる人々の前で満願の献げ物をささげます。

27:貧しい人は食べて満ち足り／主を尋ね求める人は主を賛美します。いつまでも健やかな命が与えられますように。

28:地の果てまで／すべての人が主を認め、御もとに立ち帰り／国々の民が御前にひれ伏しますように。

29:王権は主にあり、主は国々を治められます。

30:命に溢れてこの地に住む者はことごとく／主にひれ伏し／塵に下った者もすべて御前に身を屈めます。わたしの魂は必ず命を得

31:子孫は神に仕え／主のことを来るべき代に語り伝え／成し遂げてくださった恵みの御業を／民の末に告げ知らせるでしょう。